

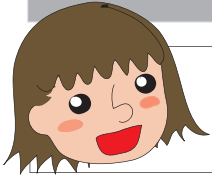


知床科学委員会

しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会

NO. 7



「知床で今何が起きているの!？」「どんな調査が行われているの!？」など、タイムリーな情報をお伝えします。

科学委員会って？

科学委員会は、様々な分野の専門家が集まり、知床世界自然遺産のよりよい保安全管理のためのアドバイスをする組織です。科学委員会の下には、分野ごとに4つの関連会議が設置されています。

今回の会議

7月11日（金）に、羅臼町公民館にて、今年度第1回目の会議がありました。

必見!
TOPIC

知床国立公園 50 周年・世界遺産 10 周年

知床は、国立公園に指定されてから今年で50周年となりました。また、来年には世界自然遺産に登録されてから10周年を迎えます。

今年の6月から「知床国立公園50周年・世界遺産10周年」として周年記念のイベントが開催されています。イベントは来年の7月までであり、参加・体験型のもの、お祭り、講演・シンポジウムから啓発活動までいろいろあります。

特設ホームページ <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/ssi/50th-10th.htm>



知床の海と森を
イメージした
周年記念ポスター

斜里町在住の絵本作家・
あかしのぶこさんが描き
ました。



とてもキレイ!
道内各地の観光地
に貼ってあるよ。



★オリジナルカードをプレゼント★

知床世界遺産センター、羅臼ビジターセンター、知床自然センター、ルサフィールドハウス、五湖フィールドハウスの5施設でデザインが異なるポストカードをプレゼントしています。



今話し合ったこと

- ①各ワーキンググループ等の検討状況
- ②シマフクロウの保護増殖事業
- ③長期モニタリングについて
- ④知床世界自然遺産地域年次報告書
- ⑤第36回世界遺産委員会決議の対応

注目!

豊かな生態系を象徴する

シマフクロウ

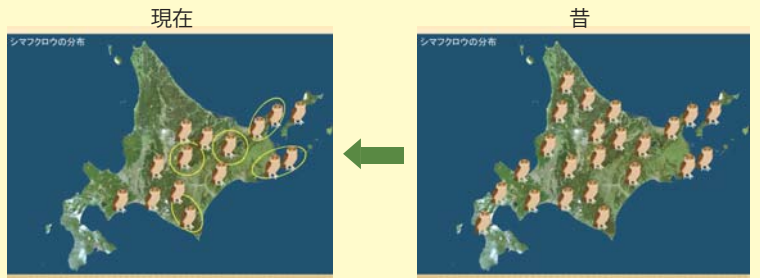
シマフクロウは北海道の道東を中心に約140羽のみの生息数となっている絶滅危惧種です。そこで1984年からシマフクロウの保護対策事業が環境省によって開始され、関係者の連携・協力の下、巣箱の設置や冬期間の給餌、人為分散、飼育下繁殖などが行われています。また、標識装着や行動追跡をはじめ、シマフクロウのエサ資源がどのくらいあるかなど生息状況把握のための調査も行われています。

シマフクロウの生態

- ◇食性：魚が主
(両生類や小型ほ乳類、鳥類も食べる)
- ◇行動圏：川の近く
- ◇寿命：20～30年
- ◇営巣：大木の洞など
(ミズナラ、ニレ、カツラなど)



知床半島には、20数つがいのシマフクロウが生息しており、全道のつがい数の4～5割にあたります。知床は、河川が急流で、冬の寒さが厳しいことなどシマフクロウの生息にとってあまりよい条件ではありませんが、開発が進まなかったことなどから、北海道で最大の生息域となっています。



北海道内のシマフクロウの生息状況の変化

知床世界自然遺産地域のシマフクロウの状況は、表のとおりです。世界自然遺産に登録された2005年以降の10年間、10つがいが確認されています。近年の繁殖成功率が低いですが、遺産地域内のシマフクロウが高齢化していることや、繁殖期間中の気候が厳しかったことなどが理由として考えられます。

遺産地域内のシマフクロウの状況について（長期モニタリング項目）

評価基準	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
つがい数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
繁殖成功率	50	30	30	50	30	40	20	10	10	20
巣立ち幼鳥数	6	5	4	7	4	7	2	1	1	2
新たな生息地への幼鳥の分散定着	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
死亡・傷病確認個体数	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0

北海道

全体のシマフクロウの回復に向けて生息環境の改善を図り、世界自然遺産である知床ではこれからの安定的な生息を図り、道内各地への分散と交流を目指した取り組みが行われます。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



■問合せ先■
 環境省釧路自然環境事務所
 〒085-8639
 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

私の担当分野は、「観光と地域」です。一見、自然とは関係がないようですが、毎年180万人が来訪する知床では、観光が自然環境に大きな影響を与えます。そこで、「適正利用・エコツーリズム検討会議」座長として、政策提案制度や環境と観光の調和政策を進めています。（北海道大学観光学高等研究センター教授。大学卒業後、石川県庁に勤務、豪州シエームスクック大学大学院修了後、金沢工業大学教授を経て、2007年から現職。国連大学客員教授、野生生物保護学会元会長。専門はエコツーリズムと地域マネジメント。）



委員の
敷田麻実です。